

平成三十年度 第六十一回卒業式

式 辞

正門の脇には河津桜が、三年間通ってきた田んぼのあぜ道にはつくしが顔を出し、春を感じさせてくれる季節となりました。

本日、第六十一回卒業式を挙行しましたところ、公私ともに大変お忙しい中、弥富市副市長大木博雄様をはじめ、多くの来賓の方々のご臨席を賜りました。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

ありがとうございます。

二〇八名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。普段の朝礼では一番後ろから後輩たちを温かく見守り、大きな安定感・安心感を与えてくれた皆さんが、今日はこうして、最前列で主役として座っています。いつもよりひとときわ大きく見えるのは距離が近いからでしょうか。いや、そうではないと思います。皆さんはこの三年間で見違えるほど大きく成長しました。

もちろん、毎日の努力の積み重ねがそう

させたと思いますが、大きなターニングポイントとなったのが、二年生の十一月。広島へ出かけた平和学習ではなかったかと思えます。弥富市が平成二十三年から始めたこの研修で、皆さんは何を見て、何を感じましたか。鉄骨がむき出しになっている原爆ドームを見た時、私たちはあまりに無力で、立ち尽くすしかありませんでした。平和記念資料館で見た写真に写っていたのは、ゲームの世界でもなければ、映画のワンシーンでもなく、まぎれもなく、七十年前に広島で起きた事実でした。その原爆を体験した被爆者である中西さんは、「多くの人が亡くなっているのに自分は

生き残ってしまった。申し訳ない気持ちがあり、話すのは勘弁してもらいたい。でも、そのことを伝えていかなくてもならないという思いで話します」と、絞り出すように、静かに皆さんに語ってくださいました。

あなた方にとって、広島での二日間の経験はとても大きなものでした。まとめの学習の一環で美術の時間に描いた共同制作「ヒロシマ」。広島に原爆が投下される八年前の一九三七年にスペインが無差別攻撃を受け、故郷（ふるさと）の街が焼き尽くされたことに対する怒りを表したと言われているピカソの「ゲルニカ」と、自分たちが広島で感じた戦争への怒りと平和

の願いを重ねた作品です。新聞にも大きく取り上げられ、今日の卒業式のしおりにも載せさせていたいただきました。一人一人が、広島での平和学習で感じたものを描き、それが、学年全体として戦争への怒りや故郷（ふるさと）への思いを表した作品に仕上がりました。この一人一人の個性と全体がひとつになった時のエネルギーこそが、皆さんがこの三年間で見せてくれたものでした。

一人一人の個性。それは「命」にまっすぐ向き合った「全校一斉道徳」で見られました。

交通事故で突然、「かけがえのない命」である娘を亡くした母の無念さ。娘の立場で考えた人もいれば、母親の立場、そして車を運転する人の立場で考えた人もいました。一度は絶たれたオリンピックの夢を、懸命な努力でつかんだ「かがやく命」。あきらめない心を持ち続けたことで手にした金メダルに感動しました。どこの誰か分からない人に、骨髄を提供しようと決心したのは「同じ命だから」でした。「命をつなぐ」ことの尊さは分かっているても、手術に痛みを伴うことで、提供しないと考えていた多くの子の心は大きく揺さぶられました。

一人一人が「命」について考え、そこで導いた答えは人それぞれです。でも、それでいいんです。これから先、あなた方は必ず「命」と向き合う時がやってきます。その時に、自ら考え、それを行動に移してください。

そして、そんな一人一人の命が躍動し、大きなエネルギーとなって発揮されたのが学校祭でしょう。まったくの「ゼロ」から新たなものを創り出す苦しみ。そこから一歩踏み出すために不可欠だった仲間の支え。そして、ばらばらだった気持ちや日を重ねるごとに一つにまとまっていき、す

ばらしい合唱やパフォーマンスを見せて
くれました。あの時の皆さんのやりきった
表情を今も鮮明に覚えています。そして、
そんな皆さんに贈られた大きな拍手も、し
っかりと耳に、心に残っています。一人一
人の小さな力が一つにまとまった時、それ
はひとつの時代を築くほどのエネルギー
になることを示してくれた瞬間でした。

皆さんが生まれ、歩んできた「平成」は
まもなく終わろうとしています。ある歴史
学者はこう言いました。「平成は、日本の
近現代において、唯一、戦争のなかった時
代だった」と。新しい時代は何という年号

になるか分かりません。どんな時代になるかも分かりません。でも、ひとつはつきりと分かっていることは、「命」の大切さを知っているあなた方が主役になるということです。一人一人の力は小さくても、それを結集することで大きなうねりとなることを体験したあなたがたが主役になるということなのです。

私たち大人は、あなたがたに「新しい時代」を託します。そして、今日、先輩たちの最後の後姿を見届けた後輩たちは、その後を追います。どうか、迷うことなくことなく、この三年間で得たものを信じて一歩一歩前へ進んでください。

保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。三年間にわたり皆さまにとってかけがえのない大切なお子さま方をお預かりし、本校教職員一同、子どもたちの成長のために全力を尽くしてまいりました。日々の指導の中で、保護者の皆さまには、もどかしさを感じられたところがあったかもしれませんが、本日、このようにお子さまの立派な姿をお見せすることができました。教職員一同誇りに感じるとともに、この成長を保護者のみなさまとともに喜びたいと思います。この三年間、本校に深いご理解と、多大なご協力を

いただき、誠にありがとうございました。
子どもたちは本日、弥富中学校を卒業しま
すが、今後とも、保護者の皆様方とともに、
子どもたちのさらなる成長を見守り、応援
し続けることをお約束します。

最後になりましたが、卒業生をはじめ、
弥富中学校を愛してくださった多くの
方々に感謝し、私の式辞といたします

平成三十一年三月五日

弥富市立弥富中学校長

高山典彦